

電力ソリューショングループ



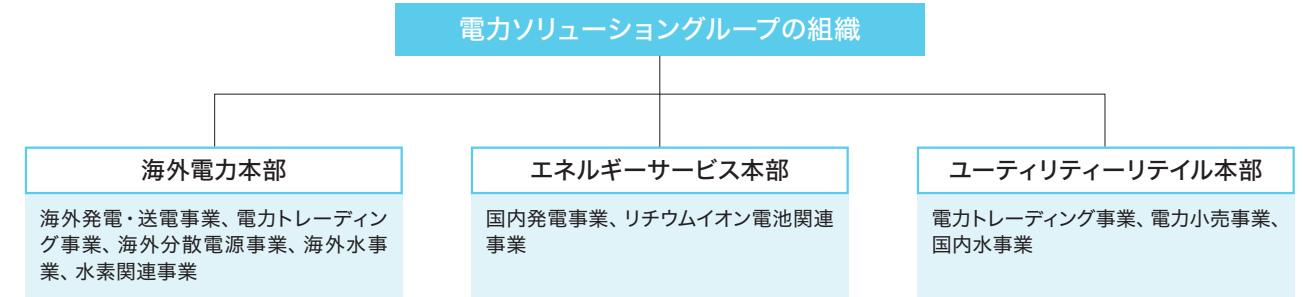
Our Vision



常務執行役員
電力ソリューション
グループCEO

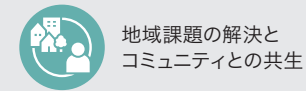
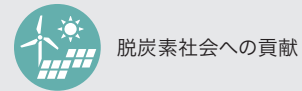
松永 愛一郎

当グループの扱う「電気・水」は重要な生活インフラの基盤です。再生可能エネルギー等の環境負荷の低い電源を中心にデジタル技術を活用し、需給調整機能などを組み合わせ、電力の安定供給に貢献するだけでなく、顧客に対する新たな付加価値の提供、さらには次世代燃料として期待される水素事業への取り組みを通じて、持続可能な脱炭素社会構築への貢献と企業価値向上の実現を目指します。



マテリアリティ

関連するマテリアリティ



事業とマテリアリティとの関連性

電力事業においては、再生可能エネルギーへのシフトとともに、電力システムの分散化・デジタル化といった事業構造の変化が起きています。当グループは、発電事業による供給側と小売事業等による需要側の発展一体推進により電力バリューチェーン全体の事業価値向上に取り組むとともに、ポートフォリオの最適化を図りながら、「2030年度までに再生可能エネルギー発電容量を2019年度比倍増(3.3GW→6.6GW)」を目標としています。脱炭素化の世界的潮流が一層強まる中、既存火力発電容量の戦略的削減、および温室効果ガスを排出しないゼロエミッション火力への切り替えにより脱炭素化を実現し、2050年までには当社発電事業における非化石比率100%化を目指していく方針です。また、当社の総合力を活かすべく、社内他営業グループとの連携を通じ、国内の地域再生エネルギー資源を活用したEX・DX一体推進による地域創生の実現を推進していきます。

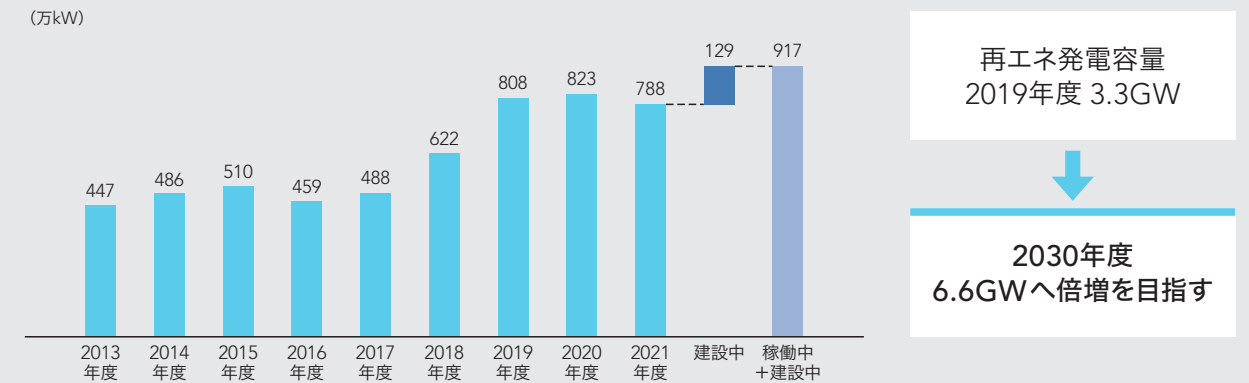
グループの強み・戦略

グループの強み	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー発電事業、特に洋上風力発電における豊富な開発・建設・運営実績 発電から小売までバランスの取れたポートフォリオを有し、顧客重視のグリーン電力・サービスを提供する総合エネルギー事業会社Eneco社の知見 急速に変化する電力事業環境を捉えたDX取り組みを推進するための、サービス開発やパートナーングにおける知見・ネットワーク等の総合力
中期経営戦略2021総括	川上(供給側)では、国内および海外において再生可能エネルギーを中心とした発電事業や、洋上風力発電を支える海底送電線事業等の事業を拡大し、川下(需要側)では、電力小売事業・新サービス事業を展開、また中部電力ミライズコネクスト(株)を設立の上、デジタルマーケティングを通じたリテイル・ライフケア・金融等のサービス提供を開始する等、電力バリューチェーン全体において事業価値の極大化を推進しました。
中期経営戦略2024における戦略	再生可能エネルギーを「つくる(発電)」、天候により変動する電気を「整える(需給調整)」、整えた電気と付加価値の高いサービスを「届ける」。これらの電力バリューチェーンの各機能の強化を通じて、洋上風力の成長が見込まれる日本や、Eneco社をプラットフォームに持つ欧州を中心に、米州・アジア等でも再生可能エネルギーを起点とする事業拡大を目指します。
今後の成長見通し	再生可能エネルギーの拡充による事業ポートフォリオの最適化を図るとともに、DXを通じた需給調整機能の強化を通じ、電力バリューチェーン全体における付加価値の高いサービスの提供を推進していきます。また、当社の総合力を活かすべく、社内他営業グループとの連携を通じ、自立分散型地域コミュニティの構築と、次世代エネルギーとして期待されるグリーン水素事業にも取り組んでいきます。

主要な成長ドライバー

当グループでは、国内外の発電事業を通じて、持分発電容量の拡大を進めてきました。今後は、再生可能エネルギーの拡充を進め、再生可能発電容量については2019年度3.3GWから2030年度6.6GWへの倍増を目指し、ポートフォリオの最適化を推進していきます。

持分発電容量の推移



ビジネスモデルの事例

Enecoは、「Everyone's sustainable energy」をミッションに掲げ、欧州で再生可能エネルギーを中核とした発電事業(つくる)、電力・ガストレーディング事業(整える)、電力・ガス小売事業・地域熱供給事業(届ける)等をEX・DXと合わせ一体的に推進し、電力バリューチェーンの強化を図りながら今後は脱炭素社会に資する次世代燃料の水素や熱源のグリーン化にも取り組み、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。また当グループはこの事業モデルを日本、米州等、他地域へ横展開していきます。

